

新規事業採択時評価結果（平成17年度新規事業化箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：鈴木 克宗

事業の概要

事業名	一般国道204号唐房バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	佐賀県
起終点	自：佐賀県唐津市大字唐房 至：佐賀県唐津市大字鳩川	延長	1.9km		
<p>事業概要</p> <p>一般国道204号は、佐賀県唐津市から東松浦半島の玄界灘沿岸を周回し、伊万里市、松浦市を經由して佐世保市に至る総延長約164kmの幹線道路である。唐房バイパスは、現道の線形不良や幅員極小・交通渋滞解消を目的とした、延長1.9kmの2車線道路である。</p>					
<p>事業の目的、必要性</p> <p>一般国道204号唐房バイパスは、佐志バイパスの事業区間と接続しており、引き続き整備を進めることで、唐房入口交差点渋滞解消及び現道の線形不良や幅員狭小区間における交通安全の確保を図るものである。</p>					
全体事業費	40億円	計画交通量	6,000台/日		
<p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

現道の状況が、線形不良・幅員狭小で歩道等が無く非常に危険な状況であることから、歩行者等の交通弱者の安全性・快適性及び自動車の円滑な交通が切望されており、本区間の道路整備が急務として関係市町は要望されている。

事業採択の前提条件

便益が費用を上回っている
円滑な事業執行の環境が整っている

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.5	総費用：34億円 （事業費：33億円 維持管理費：1億円）	総便益：51億円 （走行時間短縮便益：50億円 走行費用減少便益：1億円 交通事故減少便益：0億円）	基準年 平成16年																				
	<p>事業の影響</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>評価</th> <th>根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">自動車や歩行者への影響</td> <td>渋滞対策</td> <td>渋滞交差点を解消する（唐房入口交差点） その他の特徴 主要渋滞ポイント唐房入口交差点の渋滞解消（交差点通過時間7.5分 1.5分）</td> </tr> <tr> <td>事故対策</td> <td>注目すべき影響はない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">社会全体への影響</td> <td>歩行空間</td> <td>歩行者の安全性向上 （通過車両減少[9,077台/日 5,900台/日]により自転車・歩行者の安全性が向上する。）</td> </tr> <tr> <td>住民生活</td> <td>新規整備の公共公益施設へのアクセス向上 （東松浦地区汚泥再生処理センター（H18完成予定）へのアクセス向上）</td> </tr> <tr> <td>地域経済</td> <td>注目すべき影響はない。</td> </tr> <tr> <td>災害</td> <td>緊急輸送道路を形成 （震災点検の要対策箇所（浦川橋）が解消され、緊急輸送道路1次の機能確保が図られる）</td> </tr> <tr> <td>環境</td> <td>Co2排出量の削減 （本区間の整備により自動車からのCo2排出量が138t/年削減される）</td> </tr> <tr> <td>地域社会</td> <td>主要な観光地へのアクセス向上 （主要な観光地である玄海国定公園[観光入込客数4,71万人]へのアクセス向上が図られる）</td> </tr> </tbody> </table>					評価項目	評価	根拠	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	渋滞交差点を解消する（唐房入口交差点） その他の特徴 主要渋滞ポイント唐房入口交差点の渋滞解消（交差点通過時間7.5分 1.5分）	事故対策	注目すべき影響はない。	社会全体への影響	歩行空間	歩行者の安全性向上 （通過車両減少[9,077台/日 5,900台/日]により自転車・歩行者の安全性が向上する。）	住民生活	新規整備の公共公益施設へのアクセス向上 （東松浦地区汚泥再生処理センター（H18完成予定）へのアクセス向上）	地域経済	注目すべき影響はない。	災害	緊急輸送道路を形成 （震災点検の要対策箇所（浦川橋）が解消され、緊急輸送道路1次の機能確保が図られる）	環境	Co2排出量の削減 （本区間の整備により自動車からのCo2排出量が138t/年削減される）	地域社会
評価項目	評価	根拠																							
自動車や歩行者への影響	渋滞対策	渋滞交差点を解消する（唐房入口交差点） その他の特徴 主要渋滞ポイント唐房入口交差点の渋滞解消（交差点通過時間7.5分 1.5分）																							
	事故対策	注目すべき影響はない。																							
社会全体への影響	歩行空間	歩行者の安全性向上 （通過車両減少[9,077台/日 5,900台/日]により自転車・歩行者の安全性が向上する。）																							
	住民生活	新規整備の公共公益施設へのアクセス向上 （東松浦地区汚泥再生処理センター（H18完成予定）へのアクセス向上）																							
	地域経済	注目すべき影響はない。																							
	災害	緊急輸送道路を形成 （震災点検の要対策箇所（浦川橋）が解消され、緊急輸送道路1次の機能確保が図られる）																							
	環境	Co2排出量の削減 （本区間の整備により自動車からのCo2排出量が138t/年削減される）																							
地域社会	主要な観光地へのアクセス向上 （主要な観光地である玄海国定公園[観光入込客数4,71万人]へのアクセス向上が図られる）																								
事業実施環境	唐房地区においては、これまで現道の線形不良、幅員狭小のために十分な交通安全の確保がなされていなかったことから本事業に対する地元の期待も非常に大きい。																								

採択の理由

費用対便益は、1.5と費用を便益が上回っており、また道路整備に対する期待は大きいものがあるため、事業採択の前提条件は確認できる。
この道路整備により主要渋滞ポイントである唐房入口交差点における交通渋滞の解消とバイパス整備によって現道通過車両が減少することから交通安全の向上も図られ、整備効果は高いと判断される。また、玄海国定公園内の観光施設へのアクセス性が高まること、緊急輸送路の機能も確立されること、さらに東松浦半島地域の循環道路としての機能も発揮されることから有用な道路であり、その効果も高いものと判断される。
以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。